

**ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
社会福祉学専攻博士後期課程
博士論文審査結果の概要**

社会福祉学専攻 主任
教授 福島喜代子

博士論文提出者 : 16GS - D51 野村祥平
論文タイトル : 高齢者のセルフ・ネグレクトの理論的概念についての研究―内容分析と非階層クラスター分析を用いたセルフ・ネグレクトを構成する下位概念の検討―

〈審査結果の概要〉

1. 審査委員会

上記論文が、博士（社会福祉学）の学位請求論文として2016年10月31日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第6条の規定により、下記の5名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	教授	西原 雄次郎
副査	教授	福島 喜代子
委員	教授	金子 和夫
外部審査委員	首都大学東京 都市教養学部 教授	和気純子
外部審査委員	ルーテル学院大学名誉教授	和田敏明

※審査委員の所属は審査時のもの

2. 書面審査

書面審査は、学位請求論文提出直後から口述試験が行われた2017年2月15日までの約3カ月半にわたって上記5名の審査委員によって個別に行われ、あらかじめ社会福祉学専攻教授会で決定していた「博士論文評価表」によってそれぞれ評価を行った。また5名の委員は別紙を用いて総合的な評価を記述した。

書面審査による評価は、評価表の項目については、オリジナリティ、先行研究の検討、研究方法などで一部A+も見られ、そのほかの項目は全てであった。総合評価は2名の委員が「優+」、3名の委員が「優」であった。

3. 最終試験（口述試験）

最終試験（口述試験）は、上記5名の審査委員に加えて、社会福祉学専攻の以下の委員が参加して、合計9名の試験委員によって行われた。

教授	市川一宏
教授	高山由美子

教授 山口麻衣
専任講師 浅野貴博

口述試験は、学会発表の形式をとって行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会の口頭発表と同様に、パワーポイントを使って約 30 分発表した。終了後、試験委員との質疑応答が行われた。一部の委員は質問と合わせてコメントを行った。いずれの質問、コメントも、論文についての重大な問題点を指摘するものではなく、細部についての疑問を正す内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための修正、加筆の提案であった。その後、審査委員から提出論文及び質疑応答を受けての講評がなされた。

口述試験の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた「口述試験評価表」によって行われた。評価の結果は、一つの項目に「B」がみられたものの、他のすべての項目が「A」であった。

4. 最終審査

博士論文審査の判定合議は以下のとおり行われた。

まず、博士論文審査委員による書面審査の評価が専攻主任から報告された。その後、口述試験についての各審査委員の評価が報告された。

審査委員 5 名による合議が行われ、全員一致で、野村祥平 氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

その後、大学院社会福祉学専攻教授会が招集され、審査委員の審査結果が報告され、その承認がなされた。

2017 年 2 月 15 日

(以上)